

第2回羽田発着枠配分基準検討小委員会 議事概要

日時：平成24年8月22日(水)18時～20時25分

場所：3号館11階特別会議室

主な御意見：

<ネットワークのあり方>

- ・羽田から地方への路線がどれだけ必要かという基準が必要ではないか。地域活性化は重要だと思うが、地方には空港が多過ぎるという問題意識を持っている。
- ・地方路線の維持について、どういう基準を考えるかというのは大切な論点と思うが、具体的な基準に落とし込むのは難しい。地域活性化というのは地域によっても異なる。
- ・地方路線について10万人で分けたり40万人で分けたりしているが、低需要路線の基準を明確にすべき。離島路線をどうするか、という議論にも関わってくる。
- ・少子化の中、どの程度地方路線を維持すべきなのかも考える必要。
- ・地方ネットワークは大きな論点だが、生活の維持なのか、地域の活性化なのかで異なる。特に地域の活性化という点に価値を置くべきではないか。
- ・地方路線において、増便がないというのは便をつけても人が集まらないという面もあり、現実を見る必要。

<産業政策・競争促進>

- ・新規の定義(期間なのか規模なのか)をどう考えるか見直しが必要ではないか。
- ・新規航空会社の12機という基準を変えない場合、卒業が近い会社が多く、新規優遇を考え直す必要もあるのでは。今までの新規の優遇は平等に分けていたが、新規に配慮しつつ、配分に濃淡が出るようにすべき。
- ・新規航空会社による競争促進はある程度達成されてきている。新規をサポートするならどのようなサポートをすべきか整理する必要。
- ・かつての45・47体制のような各社の棲み分けには反対。
- ・配分された枠をどう使うのかという観点で評価することについてどう考えるか。

<安全の評価>

- ・安全について、重大インシデントや行政処分、定時出発率等様々な項目を出して貰っているが、各社共通して比較出来ると良い。

<市場メカニズム等政策的配分>

- ・オークションについて、制度が確立されていない中、誤解されている面もあるのではないか。

以上